

学習状況 調査から

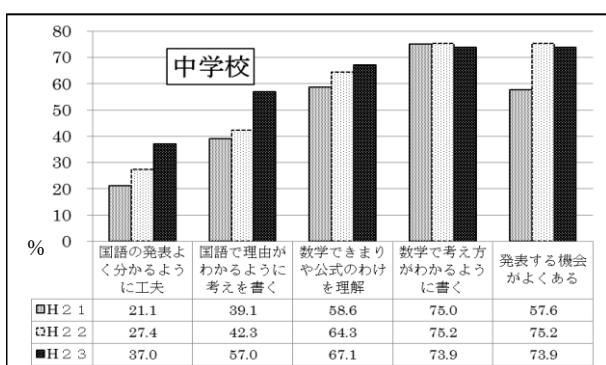
大東市教育委員会では、各学校において「授業改善」（『学び合う授業づくり』）に重点を置いて取り組み、「先生が一問一答で進める一方通行の授業」から「子ども同士による交流のある授業」を目指しています。

下のグラフは、平成 20 年から平成 22 年までは「全国学習状況調査」の数値を、平成 23 年度については「大阪府学習調査」の数値をもとに作成しています。

「学び合う授業づくり」の成果

平成 21 年度より取り組んできた『学び合う授業づくり』を通じ、小・中学校ともに授業改善が進んできています。

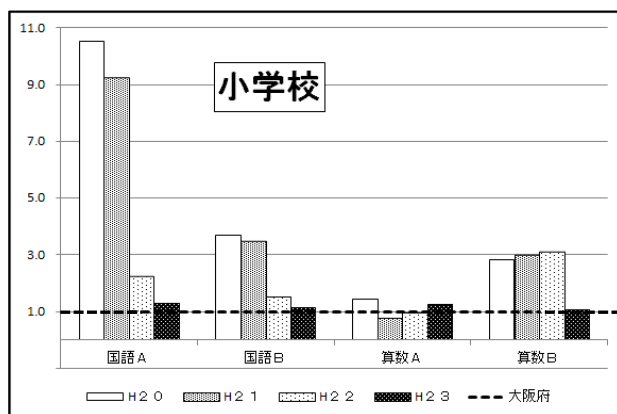
＜中学校：「授業改善」関連アンケートの経年比較＞



上のグラフは、中学校における「授業改善」関連アンケートの経年比較ですが、取り組みが始まった平成 21 年度と比較してみると、「国語の授業で意見などを発表するとき、よく分かるように工夫している」「国語の授業で自分の考えを書くと、理由がわかるように気を付けている」「数学の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解する」など、子どもたちは学力調査において課題となっている「自分の考えをまとめた上で効果的に説明する力」につながる分野を意識して学習する様々な努力を行っています。

また、右上のグラフは、小学校における学力調査における領域別無解答率に関して大阪府を「1」として経年比較したのですが、小集団で協力して互いに高め合う態度を育成することで、学ぶ意欲が向上しつつあることがわかります。

＜小学校：領域別無解答率の経年比較＞

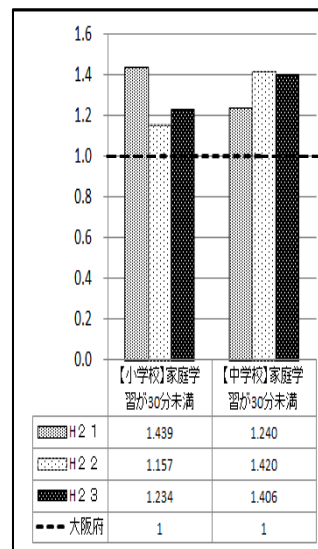


学力向上への「課題」

＜学習時間が 30 分未満経年比較＞

右のグラフは、授業以外での「学習時間が 30 分未満」と答えた児童・生徒の割合を大阪府を「1」として経年比較したのですが、小・中学校ともに大阪府の数値を大きく上回り、大きな課題となっています。

大東市では、学力の定着を図るために、「大東・まなび舎」（放課後及び土曜日の自学自習教室）などの補充学習を含めた取り組みを、今後も継続していきます。



「学び合う授業づくり」教員研修

『学び合う授業づくり』による授業改善の研修を教職員が一体となって行っています。

どのようにすれば子どもたちが積極的に「話し合い」「効果的に発表を行い」「協力しながらお互いを高め合う」ことができるのかを追求するために、「教師自身が子どもの立場になって」体験的に学ぶ工夫が取り入れられています。

子どもたちの思考力がより高められるように、努力を積み重ねていきます。



